

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質							2.9
Q1 室内環境			0.31	-	-		2.9		
1 音環境		3.6	0.15	-	-		3.6		
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-				
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能	T-2である	5.0	0.60	-	-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-				
1.3 吸音	床、壁、天井のうち、二面に吸音材の使用がある。	4.0	0.20	-	-				
2 温熱環境		1.8	0.35	-	-		1.8		
2.1 室温制御		2.7	0.50	-	-				
1 室温		3.0	0.38	-	-				
2 外皮性能	窓/SC:0.34、U値:2.49、外壁/U値:0.84	5.0	0.25	-	-				
3 ゾーン別制御性		1.0	0.38	-	-				
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		3.4	0.25	-	-		3.4		
3.1 昼光利用		2.4	0.30	-	-				
1 昼光率	昼光率≥2.5%	2.0	0.60	-	-				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-				
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-				
1 昼光制御		3.0	1.00	-	-				
3.3 照度	700lxである。	4.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御	自動照明制御が設置している。	5.0	0.25	-	-				
4 空気質環境		3.6	0.25	-	-		3.6		
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	告示対象外又はF☆☆☆☆の建築材料を使用	4.0	1.00	-	-				
4.2 換気		3.3	0.30	-	-				
1 換気量	中央管理方式の空調調和設備が設置されていない、換気量は30m ³ /h人である。	4.0	0.33	-	-				
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-				
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		3.7		
1 機能性		3.4	0.40	-	-		3.4		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-				
1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-				
2 高度情報通信設備対応	コンセント40VA/m ² 以上	3.0	0.33	-	-				
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準を満たす	3.0	0.33	-	-				
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	天井高:2.7m以上である	4.0	0.33	3.0	-				
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペースは執務スペースの7.15%を確保	4.0	0.33	-	-				
3 内装計画		1.0	0.33	-	-				
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	トイレ:無機質クロス、ビニル床シート、OAフロア等を採用	5.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	清掃員用具室を設置し、天井点検口の大きさは600角以上等を採用	4.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.4	0.30	-	-		3.4		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.4	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能	制御装置の導入	5.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	SUSやガルバニウムダクトを採用。	4.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	冷媒管:難燃性断熱材被覆鋼管、給水管:硬質塩化ビニルライニング鋼管、雑水管:排水・通気用耐火二層管	5.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		3.4	0.20	-	-				
1 空調・換気設備	換気設備の重要度に応じた系統区分、災害時の優先運転・電源供給	4.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	光・メタルの引込、精密機器の地下空間への設置回避、UHF・BS・CS	4.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			4.3	0.30	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:7mである	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.02である	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		床積載荷重:事務室 5000N/m ² 以上	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	OAフロア・ラックの採用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	OAフロア・ラックの採用	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.55	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.43	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	建物全体のエネルギー消費量の目標値を設定し、建築主へ提出する計画がある	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマ、自動水栓に加えて省水型機器を過半以上に採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減		F325以上の鋼材、PC板、機械式継手、BCP材、ニューフェローデッキ	5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ボード類:ソーラトン、ビニル床シート:サンゲツ エスリュームマール	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LG工法、OAフロア	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用		レナフレンド、ノンブリード(NB)品、バラテックスEP-GSX-C、OAクリアーコート	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP<0.01、GWP<50の発泡剤を用いた断熱材を使用している	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率60%	4.5	0.33	-	-	4.5
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		敷地内に燃焼機器を設置していない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場の適切な量、管理用車両や荷捌き用車両の駐車スペースの確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外照明の外に漏れる光を考量した設計	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	